

「できなくてはならない」課題であると評価した点は同様だが、「身近な人に挨拶をすること」よりは「謝意（ありがとう）や謝罪（ごめんなさい）」が表明できなくてはならないとされていることがわかる。ただし、残りの5課題については、その並び順は同一であった。

次に『意思の表示』についてみると、上位3課題（「名前を呼ばれたら返事をする」「作業が分からないときは聞く」「指示や説明を正しく聞き取る」）については共通しているが、他の課題については、その並び順は大きく異なっていた。

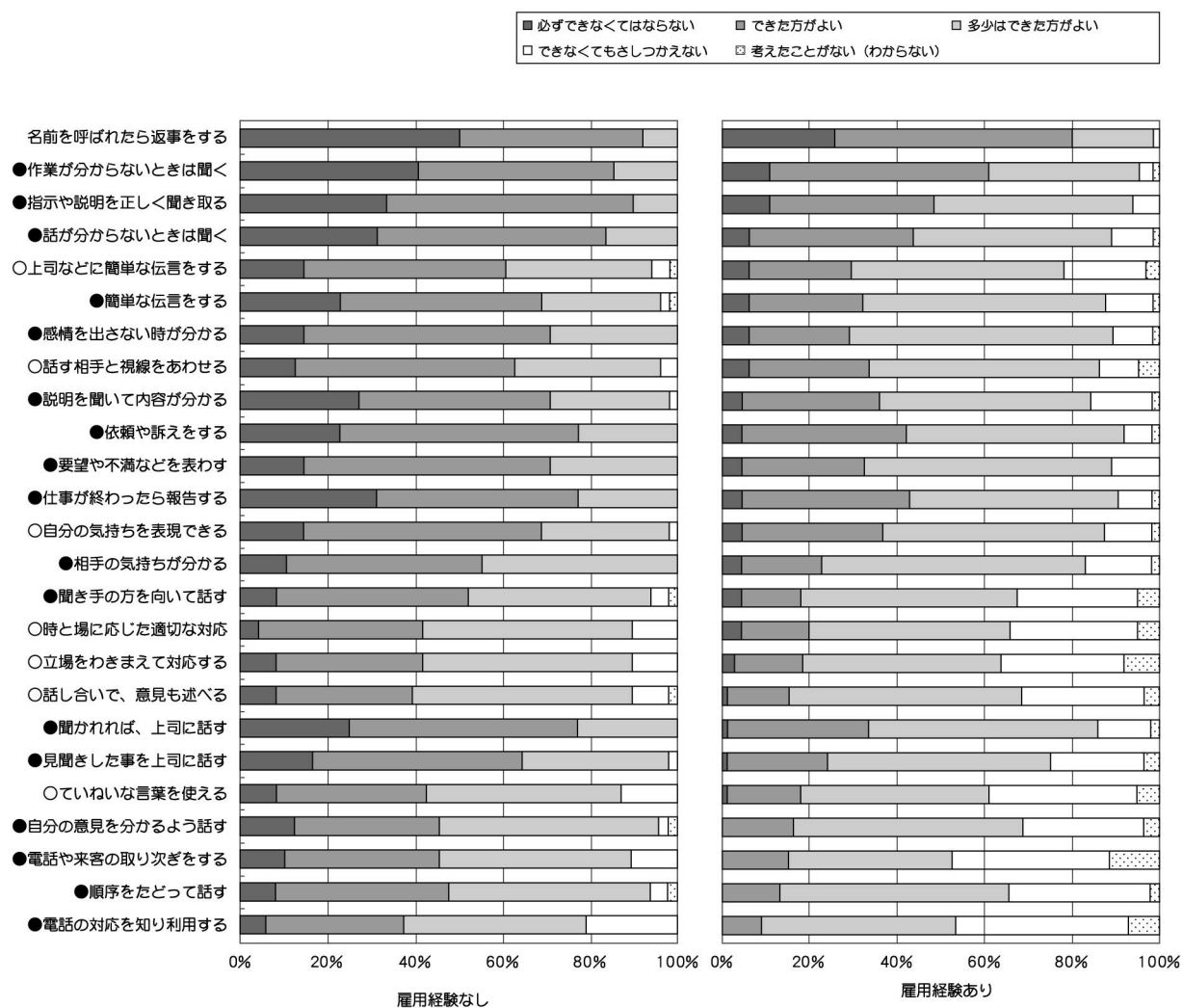


図2-8 雇用経験の有無別にみた『意思の表示』についての回答

特に、雇用経験のある事業所では「必ずできなくてはならない」と回答した事業所が1社もない課題が4課題（「自分の意見をわかるように話す」「電話や来客の取り次ぎをする」「電話の応対

を知り利用する」「順序をたどって話す」）あり、全体についても「必ずできなくてはならない」という回答は少ないのに対し、雇用経験のない事業所では全ての課題で「必ずできなくてはならない」が選択されていた。このように『意思の表示』に関しては、回答傾向並びに課題達成の順序のいずれについても両者の意見は一致していない。

また、必要度に関する雇用経験のない事業所の結果は、全ての領域に共通して、雇用経験のある事業所の結果を上回っており、その傾向は「必ずできなくてはならない」だけでなく、「必ずできなくてはならない+できた方がよい」の場合でも同様であった。したがって、雇用経験のない事業所の要求水準は雇用経験のある事業所の要求水準と比較して高いことがわかる。特に、この傾向は『意思の表示』や『協調性』など、対人関係やコミュニケーションに影響を与えと考えられる領域に関して著しかった。雇用経験のある事業所がこれらの領域についての必要度を低く見積もっている背景には、実際に職場で働く際にこれらの能力を特段必要としない（あるいは、されない）仕事につける、もしくは、周囲の理解や工夫次第で働く際に大きな問題とはならないことが経験的に明らかとなっている、などが考えられる。いずれにせよ、こうした雇用経験の有無によって差が大きい領域や課題については、雇用経験のない事業所の意見を雇用経験のある事業所の意見に近づけていくための具体的な手だてが求められている。

2. 一般就労を実現するための課題（その2）

— 項目を積み上げて達成する6課題47項目 —

一般就労を実現するための6課題47項目に関して雇用経験の有無によって意見が異なるかを χ^2 検定を用いて検討した。

その結果、47項目中9項目において回答傾向が有意に異なることが明らかとなった（表2-3：各課題内において、雇用経験のある事業所が「必要」と回答した率の高い順に並べた）。また、有意差が認められた9項目中4項目は『金銭管理』に関する項目であった。

回答傾向に有意差が認められた項目では、『金銭管理』課題の「勤労に対して報酬が得られることがわかる」の1項目を除き、いずれも雇用経験のある事業所の「必要」の回答率は、雇用経験のない事業所の回答率を上回った。また、有意差は認められなかったものの、各領域内で「必要」の回答率が高い課題においては、同様の傾向が認められた。こうした傾向は8領域96課題とは正反対のものであり、「雇用経験がない事業所」の意見は、常に「雇用経験のある事業所」の意見よりも厳しいものであるといった見方は適切ではないといえよう。

しかしながら、以上のような点で意見に相違が見られたものの、『金銭管理』に関する項目を除けば、6課題47項目に関して雇用経験の有無による意見の相違は少ないと考えられる。

表2-3 雇用経験の有無別の回答率（製造業56～300人規模）

		雇用経験なし	雇用経験あり	
安全について	危険な物や危険なことがわかる	77.1%	92.4%	*
	危険を示す言葉や標識がわかり指示に従う	83.3%	87.9%	
	危険な状況を判断できる	75.0%	83.3%	
	危険を示す言葉や標識がわかる	68.8%	81.8%	
	危険な状況に対処できる	35.4%	53.0%	
時間の理解と管理について	仕事に行く日と行かない日があることがわかる	87.5%	87.9%	**
	時計でだいたい時刻を読む	75.0%	77.3%	
	今日の日付や曜日がわかる	77.1%	75.8%	
	規則正しい生活をする	52.1%	63.6%	
	日課に沿って生活する	41.7%	54.5%	
	乗り物などの時刻表を読む	25.0%	51.5%	
	日課表やスケジュール表を読む	39.6%	34.8%	
	計画を立てることの必要性がわかる	16.7%	27.3%	
	時間や日数の計算をする	27.1%	27.3%	
	予定を立てて生活する	18.8%	22.7%	
移動について	最寄りの駅やバス停まで一人で行く	70.8%	80.3%	*
	職場まで交通機関を利用して一人で行く	79.2%	78.8%	
	交番や停留所・駅がわかる	60.4%	77.3%	
	電車やバスの切符を買う	50.0%	69.7%	
	会社の中で一人で目的の場所にいく	66.7%	69.7%	
	知ってる場所なら一人でいく	52.1%	53.0%	
	知らない場所でも一人でいく	6.3%	21.2%	
数の理解について	簡単な数を数える	62.5%	86.4%	**
	簡単な数字を読んだり書いたりする	66.7%	77.3%	
	簡単な加法がわかり、計算をする	52.1%	50.0%	
	簡単な減法がわかり、計算をする	47.9%	47.0%	
	長さや重さなどをはかったり数える	56.3%	40.9%	
	簡単な乗法がわかり、計算をする	25.0%	24.2%	
	電卓を使って計算する	35.4%	22.7%	
	簡単な除法がわかり、計算をする	18.8%	21.2%	
言葉の学習について	ひらがなや簡単な漢字を読む	70.8%	81.8%	
	しばしば目にふれる標識・看板・掲示などがわかる	75.0%	65.2%	
	ひらがなや簡単な漢字を書く	50.0%	62.1%	
	語句や短い文を正しく読む	47.9%	37.9%	
	簡単なメモをとる	35.4%	34.8%	
	語句や短い文を正しく書く	20.8%	30.3%	
	できるだけ順序立てて書く	14.6%	12.1%	

（*） 5%水準で有意 （**） 1%水準で有意

表2-3 (続き) 雇用経験の有無別の回答率 (製造業56～300人規模)

		雇用経験なし	雇用経験あり	
金銭管理について	勤労に対して報酬が得られることがわかる	87.5%	69.7%	*
	少額の買い物を一人でする	50.0%	66.7%	
	自動販売機を利用する	43.8%	63.6%	*
	商店を利用して、日用品を買う	45.8%	48.5%	
	日用品のおよその値段がわかる	41.7%	39.4%	
	収入にあわせて金銭を管理する	43.8%	33.3%	
	計画的に貯金・預金をする	6.3%	19.7%	
	予算をたてて、計画的に買い物をする	2.1%	16.7%	
	簡単な金銭収支を記録する	10.4%	18.2%	*
	家計の収入・支出がわかる	4.2%	13.6%	*

(*) 5%水準で有意 (**) 1%水準で有意

3. 期待される仕事の出来高と不良品の発生率に関する意見

雇用経験の有無によって「期待される仕事の出来高」や「不良品の発生率」に関する意見が異なるかを χ^2 検定を用いて検討した(表2-4)。

その結果、「期待される仕事の出来高」「不良品の発生率」のいずれについても有意差は認められなかった(出来高： $\chi^2=6.77$ df=6 $p>0.05$ /不良率： $\chi^2=12.44$ df=6 $p>0.05$)。したがって、この点に関して、両者の意見は一致しているといえる。

表2-4 期待される仕事の出来高と不良品の発生率に関する雇用経験の有無別の意見

(単位%)

		出 来 高							不良品の発生率							
		健康者と同等	健康者の70%以上	健康者の60%～69%	健康者の50%～59%	健康者の40%～49%	健康者の30%～39%	その他	回答数	1%未満	1%～2%	3%～4%	5%～6%	7%～8%	9%～10%	その他
回答数									回答数							
雇用経験なし	48社	6.3	22.9	18.8	22.9	16.7	8.3	4.2	46社	30.4	28.3	17.4	6.5	0.0	0.0	17.4
雇用経験あり	65社	1.5	20.0	20.0	41.5	10.8	4.6	1.5	65社	30.8	26.2	10.8	18.5	1.5	7.7	4.6
全 体	113社	3.5	21.2	19.5	33.6	13.3	6.2	2.7	111社	30.6	27.0	13.5	13.5	0.9	4.5	9.9

4. まとめ

企業規模56～300人、業種を製造業に限って、雇用経験の有無による意見の相違について検討した結果、雇用経験の有無によって8領域96課題中69課題の回答傾向に有意差が認められた。結果からは、雇用経験のない事業所が「必ずできなくてはならない」とする評価は、雇用経験のある事業所よりも統計的に有意に厳しいことが明らかとなった。しかしながら「必ずできなくてはならない」とした回答率によってその並び順を見ると『作業』『職業に関する知識・理解』『一般的な知識』『特徴』の4領域については、当該領域内では類似した傾向が認められた。したがって、これらの領域では、就労の準備に際して、どの課題から達成していくことが必要かについての意見は一致しているといえよう。

一方、『日常生活』『職業生活』『協調性』『意思の表示』の4領域については、「必ずできなくてはならない」とした回答率によってその並び順を見ると、当該領域内の並び順は必ずしも一致していなかった。なお、これらの4領域は、第1章における検討で明らかとなったように「必ずできなくてはならない」の評価が3社に1社以上である課題を他の領域に比べて多く含む領域でもある。就労に際して、より必要とされる領域において、その課題の達成順序について異なった意見を有している可能性が示唆されたことから、こうした雇用経験の有無による違いをどのように評価し、どのような違いを解消する必要があるかについて、さらに検討することが必要であろう。

これに対し、6課題47項目では雇用経験の有無による差はわずかであり、「仕事の出来高」や「不良品の発生率」に関しては、雇用経験の有無による差は認められなかった。

以上のように、今回の結果からは、雇用経験の有無によって、どの程度「できなくてはならないか」あるいは「必要か」についての意見は異なるものの、どの順序で「できなくてはならないか」あるいは「必要か」についての両者の意見は、必ずしも不一致ばかりではなく、一致している領域や課題も少なくないことが明らかになった。ただし、より規模の大きい事業所においても、また製造業以外の業種でも雇用経験の有無に関わらず、比較的一致した意見が得られるのかどうか、は今後の検討課題として残された。